補聴器についての様々な疑問・不安にお答えする Q&A のコーナーです

Q. 補聴器を使えば、以前のようにきこえるのですか

A. 補聴器は「聞こえ」を戻すのではなく、現在の聴力を最大限に活かし、快適な「聞こえ」を提供するものです。「聞こえ」の程度には個人差があり、補聴器の装用目的・効果も人それぞれです。「聞こえ」が元に戻ることはありませんが、適切に調整された補聴器を使用することで、「聞こえ」の不安が解消され、より活動的な生活が送れるようになります。

Q. 補聴器を使用すれば、聴力は低下しないのですか？

A. 補聴器はご自身に合った調整で正しい使い方をすれば、補聴器ご使用中に聴力が低下することはありません。ただし、補聴器の調整が耳に合わず音が大きい状態で長時間使用する場合には、聴力低下することもありますので適切な調整を行ってご使用下さい。

Q. 補聴器はいくらぐらいするのでしょうか？

A. デジタル補聴器には 6 万円程度から 40 万円を超えるものまで様々な価格帯の製品があります。補聴器は形や性能によって価格もさまざまです。例えば、高価な器種は騒音を抑制し、細かな音の調整ができる長所がありますが、そのような機能が全ての方に必要とは限りません。お使いになる環境や用途に合わせて、自分にとって必要な機能を備えた補聴器を予算も含めてスタッフと相談しながら適切な補聴器を決めるのがよいでしょう。

Q. 価格の安い補聴器と高い補聴器の違いはなんですか？

A. 補聴器のタイプや性能による違いです。価格が高い器種は周囲の騒音を抑制したり、ご使用いただく方に合わせて細かな調整ができたりします。ただ、価格の高い高機能補聴器を使用すれば全ての方がよく聞こえる様になるわけではありません。補聴器を購入する時は使う人の聴力や聞こえの状態にあっているか、どんな時に補聴器を使用したいのか、快適に聞こえるかなどスタッフとじっくりご相談ください。

Q. 補聴器を購入してすぐに使いこなせますか？

A. 補聴器を使いこなすには、ある程度時間がかかります。音や装着の違和感があったり、人によって感じ方は様々です。快適に使用できるように 30 分程度の練習から徐々に慣らしていく必要があります。少しゆっくり話すなど周囲の協力も重要です。

Q. 補聴器は小さくて操作が難しそうですが大丈夫ですか？

A. デジタル補聴器にはボリューム操作などがいらない補聴器やボタンのみのシンプルなタイプもございます。
電池交換も慣れてしまえば難しくありません。

Q. 補聴器は 1 日中つけなくてはいけませんか？

A. 補聴器の装用時間には個人差があります。会議や講演会のときだけ使用するという人もいれば、朝起きてから夜寝るまで使用している人もいます。
日常生活には生活に必要な環境音もたくさんありますので、音の聞き漏らしがないよう無理ない程度に長く使用することをお勧めいたします。

Q. 補聴器を使用して、携帯電話や電話を使うことはできますか？

A. 補聴器を使用して携帯電話や電話を使用する場合、受話器を耳にしっかりあてると、「ピーピー」ハウリング音が鳴る場合があります。
耳かけ型の場合は受話器を耳の上にずらし、補聴器のマイクと受話器の中心が同じ高さになるようにしてください。
耳あな型の場合は受話器と補聴器の間に少し隙間ができるようにして耳にあててください。
いろいろな持ち方を試しながら、聞こえやすく、ハウリングしにくい場所をさがしてください。

Q. 補聴器の寿命は何年くらいですか？

A. 平均寿命は 4~5 年です。手入れをきちんと行うことで、平均より長く使用している人もいます。
補聴器は精密機器のため、毎日のお手入れと定期的な点検を受けるようにしてください。

Q. 補聴器は両耳につけた方が良いのでしょうか？

A. 人は本来、左右両耳から周囲の音を聞き取ることで、音の方向や距離感などを判断しています。
補聴器も片耳だけでなく両耳に装用する方が、より自然な状態で音を聞き取れ、会話も聞き取りやすくなります。

Q. 購入後に聴力が変化した場合でも補聴器を使うことはできますか？

A. デジタル補聴器は、聴力や聞こえの状態に合わせて何度でも調整することができるので、聴力変化に応じて再度きめ細かく調整することができます。ただし、補聴器の適応範囲を超えるような聴力変化には対応できない場合もございます。

Q. 通信販売で購入した補聴器がよく聞こえないのですが

A. 本来、管理医療機器である補聴器は、使用する人の難聴の程度に合わせて適切に調整することで効果が最大限に発揮されます。補聴器は使う人の聴力や生活環境、音の好みなどに応じてきめ細かい調整を繰り返しながら使い続けていくものです。まず耳鼻科の専門医等で現在の聴力と聞こえの状態の把握、理解することが重要です。自分に合っていない補聴器を使い続けると、耳を痛めてしまうことにもなりかねませんので、専門のスタッフといろいろ相談しながら自分に合う補聴器をみつけましょう。

Q. 補聴器を使用するとピーピー音が鳴ります。どうすればよいでしょうか？

A. ピーピー音はハウリングです。
補聴器と耳の間に隙間がある場合に耳から洩れ出て、再びその音を拾うことで不快なピーピー音（ハウリング）が発生します。ハウリングを止めるには、まずは耳から洩れ出てしまう音をできる限り漏れ出ないように耳せんがしっかり耳穴に入っているかどうかを確認します。また、耳穴の形が変化して補聴器が耳に合っていないことなども原因として考えられますのでハウリングでお困りでしたら、専門スタッフにご相談ください。

Q. 補聴器をつけたままレントゲン撮影やCT・MRI などの検査を受けても大丈夫でしょうか？

A. 使用する放射線の種類によっては補聴器を損傷させる場合があります。また、金属類その他が撮影の近くにあると、肝心な診断に誤りが生じることもあります。したがって、受ける際は必ず補聴器を取り外してください。

Q. テレビの声が聞こえづらいのですが

A. ニュース番組などアナウンサーが一人で話すような場合は比較的聞こえやすいと思いますが、バラエティー番組や時代劇など音声と音楽が同時に流れたりする場合、聞きたい言葉が聞こえにくくなることがあります。テレビが聞こえづらい場合は一度聴力測定されることをお勧めいたします。

Q. 複数の人が話す場所では聞こえづらいのですが

A. 複数での会話は通常でも聞き取りにくい場合があります。聴力が低下している状態であればさらに聞こえにくくなるでしょう。複数の会話を聞こえやすくするためには音の方向感覚が重要になります。このような場合には聴力の状態にもよりますが、左右の聞こえと方向感覚を補うために、補聴器の両耳装用をお勧めいたします。

Q. 聴力が低下するとどのような問題が考えられますか？

A. 聴力が低下すると、音が聞こえにくいということだけではなく、言葉が聞き取りにくくなり会話の内容が分かりにくくなります。そうなると人と話す事や外出することが面倒になり徐々に孤立してしまう場合があります。
耳からの情報が少なくなると、脳への刺激も少なくなり認知症やうつ状態になりやすいという報告もあります。
難聴は本人だけの問題ではなく、家族を含め社会全体の問題となる可能性もありますので、本人だけではなく、周囲の方の気付きも大切になってきます。